

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本独文学会 ドイツ語教育部会

(代表者 太田 達也 会員数 約530人)

T E L 03-5950-1147

1 前 文

現行の学習指導要領においては、外国語としての「ドイツ語」教育は「英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うもの」(第2章第8節第2款第7)とされ、ドイツ語に特化した記述はないが、外国語科としては「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」ことが目標とされている(第2章第8節第1款)。本評価書では、共通テストの「ドイツ語」の問題が、この高等学校外国語教育の目標に沿う形で作成されているかどうか、また、大学教育を受けるにふさわしい能力を判断する設問になっているかを総合的に評価した結果を報告する。

令和5年度共通テスト(本試験)における「ドイツ語」受験者は82人であった。これは、前年度(令和4年度)の受験者数108人に比べると減少しているが、各私立大学の入試方式も多様化しているため、1か年度の減少だけでは傾向は分からない。

平均点は123.80点(100点満点換算値:61.90点)であった。最高点は200点(同:100点)、最低点は26点(同:13点)であった。令和4年度の平均点は124.26点(同:62.13点)であり、一般的な試験の特徴(一般に、平均点が65~70点くらいになるように問題作成されることが多い)を保持できていると言える。標準偏差は49.20(同:24.60)であり、これは得点分布の山が74.60点~173.00点(同:37.30点~86.50点)の間に集まっていることを示すが、この得点分布も想定しうる分布であると言える。

問題形式は、共通テスト初年度の令和3年度に大きく変わり、令和4年度、5年度と形式の変更はなかった。実際のコミュニケーションで必要とされる知識やスキルがしっかりと問われており、時代に即した工夫がなされていると評価する。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

大問の構成(大問1~7)、出題形式、総設問数(全51問)、大問ごとの配点(大問1:21点、大問2:24点、大問3:20点、大問4:40点、大問5:30点、大問6:30点、大問7:35点)とも、昨年度(令和4年度入試)と変わりなかった。大学入学共通テスト導入初年度の令和3年度入試では、文法知識を問う大問3が25点、長文読解の大問6が25点であった。昨年度から大問3が5点減り、大問6が5点増えたということは、基本的な文法知識は問いつつも、長文読解などの運用能力のほうに比重をシフトしようとした出題者の意図が窺い知れる。長文のテーマは、ユースセンター(Jugendzentrum)で行われる衣類交換マーケット(大問4)、銀婚式を迎える両親へのプレゼント(大問5)、日本に交換留学生として一年間暮らしたドイツ人の体験レポート(大問6)、人工知能を題材にしたある小説に関する書評(大問7)など、高校生・大学生も身近に感じられるテーマが選ばれている。

ドイツ語総語数(のべ語数)は2,215、総語彙数(単一語の初出回数)は684であった。参考まで

に、令和3年度は総語数2,144, 総語彙数614, 令和4年度は総語数1,764, 総語彙数584であった。昨年度は語数・語彙数を抑制した結果、難度が高い語が増えてしまった(19語)ことを指摘したが、今年度は語数の水準が令和3年度と同等とのところまで戻っている。語数が多ければ、受験者は文脈を利用して文意をとりやすくなる利点がある。

本評価で使用している過去の出題語彙データベースに蓄積している語、一般的独和辞典(見出し語6~8万語程度)で基礎語彙として扱われている語、基礎語彙を組み合わせた合成語、固有名詞、国際語、注付きの語、派生語のうち形態素の意味からその意味が容易に想像できる語などを除くと、やや難度が高いと思われる語の数は6語であった(★)。

★ aus|führen, besorgen, bewerben, blöd, ein|schätzen, Klamotte

ただし、これら6語は一般的な独和辞典において基礎語彙扱いではないが見出し語としては挙げられている。ausführenの登場は1回(大問7)で目的語がBefehlであることと基礎動詞がführenであることから意味を想像することはできるだろう。bewerben(大問6)は本文中では過去形のbewarb, 設問1では過去分詞のbeworbenで示されており、やや難しい。blödは口語であり、この単語に触れたことがない受験者にとっては意味が想像しづらいが、すぐ次の行(大問5)でich denke auch, das ist zu spätという文が続くことによって、blödがネガティブな意味であることが分かるように工夫されている。なお、会話において口語が用いられることは自然なことである。Klamotteも難語ではあるが、本文(大問4)ではmodische Klamotteという形で出てくるので服飾に関係することは分かる。前年度との比較で言うと、前年度は総語数が抑制され、文章量がコンパクトになった結果、語彙に頼らざるを得ず、語彙がやや難しくなっていたが、今年度は語彙数を増やすことによって難度は抑えられ、文脈で判断できるようにする工夫が見られた。

以下、大問ごとの評価を記す。

第1問 設問数(7), 頁数(2), 配点(21)は昨年度と同様で、設問も発音に関する小問が3題, 文法3題, 語彙の分類に関するものが1題と、昨年と同じ構成である。昨年度と異なるのは、問2において選択肢が独立した単語として明示されるのではなく、すべて同一文中の語彙とした点である。ある文脈においてそれらの語が同時に出現し得るという実際のドイツ語運用を意識した点で新しく、良問と言える。そのほか、重要な基本事項の理解度を確認するうえで総じてよく練られた問題である。

問1 母音öの長短を問う問題である。子音連鎖の前は短母音になるという基本的知識が4つの形容詞において問われるが、religiösは語彙としてはやや難度が高い。しかし接尾辞-lichによる派生語を含め、発音原則の理解度を確認できる良問である。

問2 子音連鎖stの発音を問う問題である。既に指摘したように、独立した語彙を対象とするのではなく、すべて同一文中の語彙とした形式は昨年と大きく変わった。複合語及び接頭語に関する知識が必要だが、難度は適切で基本的な発音の理解を問う良問である。

問3 職業を表す名詞とその関連語のペアから、アクセントの位置が同じものを選ばせる問題である。品詞は同じでもアクセントが移動するものに関する発音知識を問う適切な問題である。

問4 選択肢にある動詞全てに含まれる語幹の長母音aのうち、3人称単数が主語の場合に別の母音に変化するものを選ばせる、動詞の現在人称変化の正確な知識を問う問題である。

問5 選択肢にある動詞すべてに含まれる語幹の二重母音eiのうち、過去形にした場合に別の母音に変化するものを選ばせる問題である。正答のbleibenは基本語彙であり、難度は高くない。

問6 名詞を複数形にしたときに、語尾-erがつくものを選ばせる問題である。選択肢の名詞は

どれも日常生活でよく使用されるもので、名詞の複数形に関する正確な知識を問う良問である。

問7 グループに分類された名詞に対し、選択肢の中からそれに属さない名詞を選ぶ問題である。解答すべき選択肢はやや難度が高いが、出題に使用された他の名詞は比較的平易で、正解を導き出しやすい。基本的語彙についての知識を確認する工夫された良問である。

第2問 設問数(8)、頁数(2)、配点(24)、出題形式のいずれも昨年と同様である。基本的な文法や語彙の知識を問うパートである。全体として適切な難度であると評価する。

問1 *jn. um et. bitten*という熟語の知識を問うている。所有冠詞*mein*を伴う目的語を4格にすることに気付けば、選択肢の中から正解を選ぶことができる。出題の狙いも明確である。

問2 動詞*folgen*が3格目的語を取るという知識を必要とする。ただし、3格目的語は選択肢の中でひとつしかなく、文の意味が分からなかったとしても、正解を選ぶことはできてしまう。

問3 適切な関係代名詞を選択させる問題である。先行詞*Film*は基本語彙であり、関係文の中の関係代名詞の役割が主語であることに気付けば、選択肢はすべて男性名詞のため、正解を選びやすい。基本的な知識を問う良問である。

問4 *sein*と*seit*+期間が継続を表すという知識を問うている。出題の狙いも明確であり、難度は妥当である。

問5 *jn. wissen lassen*の知識を問うている。4格目的語を必要とすることに気付けば、選択肢に挙がっている4つの人称代名詞の中から、*mich*と*dich*に絞ることができる。やや難度は高い。

問6 *sein*支配の完了形の知識を問うている。出題の狙いも明確である。

問7 *zur Welt kommen*という熟語を知っていて、文中で対として提示される*starb*が*sterben*の過去形であることに気付けば、正解を選ぶことができる。良問である。

問8 *als*以下の文構造が接続法Ⅱ式であり、非現実を表していることを理解していれば正解を選ぶことができる。基本的かつ重要な文法知識を問う良問である。

第3問 設問数(4)、頁数(2)、配点(20)及び、6つの選択肢から5つを選び空欄を補う出題形式も昨年と同様である。語彙の選択は適切だが、全体的な難度はやや高めである。

問1 *Gemeinsamkeit mit et. haben*という慣用表現に加え、*übersehen*が文中では過去分詞であり、受動文であることに気付く必要がある。その点では難度が高い。同時に、従属接続詞*obwohl*が導く副文と直後の主文を正しい語順で作れるかを問う良問である。

問2 *ohne + zu*不定詞の構文に加え、*die Meinungen von jn. hören*と*auf jn. hören*を混同せず、適切に使い分けることができるかがポイントになっている。

問3 *nicht A, sondern B*という慣用表現と、「別のバンドのDVD」を*die von einer anderen (Band)*と表現できるかという指示代名詞の知識を試している。ひとつの文の中で異なるふたつの女性名詞が省略されており、難度はやや高い。

問4 選択肢に*abgegeben*と*zurückgegebenen*という比較的似た語が入っているが、後者は形容詞語尾がついており、形容詞として使用されていることに気付く必要がある。否定が入った冠飾句が使われており、難度は高めである。

第4問 連続性のある会話のまとまりの理解を問う形式であり、設問数(8)、頁数(6)、配点(40)は昨年度と同じである。題材は、ギムナジウムの生徒がユースセンターで衣類(古着)の交換会を行うというものである。対話、SMSでのやりとり、イベントのポスターが示されている。古着の交換という場面を理解するには、ドイツでは*Flohmarkt*(フリーマーケット)のようなものがよく行われている、という予備知識も必要になると思われ、日本の若者にどれほど

身近なのか、という点については少し疑問が残る。なお、選択肢が日本語で書かれている設問が3つあったが、それらをドイツ語で作成しても、難度の点で問題なかったように思われる。

問1 イベントの企画者とその兄が、衣類交換マーケットを開催するに至った経緯について話している部分の理解を問う良問である。

問2 正答である③が述べている内容が本文中でもほぼそのまま書かれており、丁寧に読めば正解できる。

問3 文脈を考えれば、環境にとって不都合・問題であることを言わんとしていることは明白であり、③ (problematisch) が最も適切であることは間違いないが、① (unrealistisch) も方向性としては同じネガティブな内容であるため、少し紛らわしい。単一語の意味の知識だけの問題にならないよう、先行するgünstigの部分と組合せ方式にしてもいいかもしれない。

問4 sollenを用いて指示を仰ぐ場面で、適切な返答を選ぶ問題である。日常の自然なやり取りを扱う点で評価したいが、正解である①のStänderの意味を知っていることが重要であり、やや難度が高い。

問5 本文中の状況のみならず、選択肢となっている文(の一部)の意味や文法もしっかり理解していなければ正解を選べない。①は一見意味が通じるように見えるが、現在完了形になっており、時制にも注意が必要である。工夫された良問である。

問6 イラストを使って、少し目先が変えてあり、工夫されている。本文(SMSのやりとり)を丁寧に読めば正解を選ぶことができる。

問7 間違い探しのような要素が入っており、興味深い設問である。前置詞stattの意味や働きの知識も必要としつつ、全体のテーマが理解できているかも問われるため、興味深い設問である。

問8 一連の会話を適切に追えば、正答は④であることが比較的容易に分かる。

第5問 設問数(6)、配点(30)は昨年から変わらない。頁数は昨年より1頁減っている(頁数(4))。テキストは、銀婚式を迎える両親へのプレゼントについて、Kim, SamiとChrisがインターネット広告を見ながら話し合う場面を扱っている。スパリゾート、湖でのグランピング、ダンス教室がプレゼントの候補として挙げられており、ドイツ語圏における日常が意識されている。昨年の第5問は、インターネット広告を見ながらの会話文から、短いメール、そしてメールの内容についてチャットでやり取りする場面へと移っていく、複合的なテキスト構成であった。それに対し、今年は広告と会話シーンのみからなる、比較的シンプルなテキストになっている。会話テキストは36行、約250語、広告は3種類で約70語の合計約320語であり、テキストの総語数は、約330語であった昨年とほぼ同じであった。問としては、日常の表現を試すものが比較的多く、ドイツ語を実際に使用する学習を促す意図が垣間見える。ただし、コロナ禍で日常会話の練習機会が通常より少なかった受験者にとっては、難度が高かった可能性がある。

問1 エスプレッソマシンが250ユーロからある、というChrisの発言に対する、Kimの反応の意味を問うている。日常会話で頻繁に使われるdas gehtの意味を文脈に即して適切に把握し、ここでは選択肢のrelativ günstigがそれに対応していることを見極める必要がある。

問2 エスプレッソマシンをプレゼントする場合、一人当たりいくら出すことになるのかを選択肢から選ぶ問題である。この会話が3人で行われている点に注意が必要である。

問3 空欄34に当てはまる表現を選択する問題であるが、直後の文のgünstigとin der Näheを理解することで、肯定的な表現が当てはまることが分かる。正解であるsieht doch gut ausは頻繁に使う表現であり、日常のコミュニケーションを意識した良問である。ただし、問1に続いて、ここでもgünstigの意味の理解を試している点は工夫の余地がある。

- 問4 会話に出てくるBasispreisが、ここで具体的に何を指しているのかを、スパリゾートの広告文から読み取る問題である。直後の文でBasispreisの意味を、広告文の語彙を使って間接的に説明している点に気付くことができれば、正解を導きやすい。
- 問5 前後の文脈から、適切な反論の表現を選ぶ。日常で頻繁に出てくる、Aber das macht doch nichts!といった表現を問うのは、問3と共通しており、作問の意図が明確に読み取れる良問であろう。
- 問6 会話テキストの内容に合わないものを選ぶ問いであるが、テキストの細部までは理解が及ばなくとも正解でき、比較的容易である。
- 第6問 設問数(5)、配点(30)は前年度と同じである。問2がイラストを使った設問であるため頁数は前年度より1頁増えている(頁数(5))。日本の高校へ1年間交換留学した高校生が帰国後に書いたというレポートであり、題材としては受験者がイメージしやすいという意味で評価できる。内容の理解力が試される設問となっている。過去形や過去分詞を見て動詞の不定形やその意味を追っていければ、出来事の流れを正確に理解することができる。
- 問1 内容を追って読み進めると、テキストが時系列に書かれているわけではないことに気付くことができる。そこで月の名前、季節名などを手掛かりにし、さらに留学してすぐに起こった幾つかの出来事を理解できれば、選択肢を正しい時系列で並べることができる。良問である。
- 問2 gebratene Nudelnの意味が分かれば正解を選ぶことができる。食べた物と場面をイラストにし、相違点を分かりやすくする工夫がみられる。文中のbei meiner Gastfamilieに注目し、イラストをよく見れば、正解を選ぶことは難しくない。
- 問3 第3段落の内容を正確に理解し、選択肢に含まれるsehr oftと本文中のmanchmalの意味の違いが分かるかどうかで、正解を選べる。
- 問4 第一段落の最後の文を正確に理解していることが求められる。良問である。
- 問5 テキスト全般を正確に理解していることが求められる。正答のひとつである⑥の「内気な性格」について、本文では人前で踊るのは恥ずかしかったとあるものの、一方では登校初日からクラスメートとカラオケに行くなどむしろアクティブにも見え、やや違和感が残る。
- 第7問 設問数(7)、頁数(4)、配点(35)はいずれも昨年と同様だが、本文は37行、総語数365語と、昨年度の268語から大幅に長くなり、一昨年並みとなった。テキストの題材は昨年度がレム睡眠とノンレム睡眠について書かれた脳科学分野であったのに対し、今年度は南ドイツ新聞の書評からの作問である。取り上げられている作品は、人工知能(AI)搭載ロボットを題材としたカズオ・イシグロの小説『クララとお日さま』(“Klara und die Sonne”)である。近年AIロボットは日常でも見かける身近な存在になりつつあり、テーマとして取り組みやすい。Befehle, BewusstseinやWahrnehmung, Toleranzなどの抽象的な語彙に戸惑う可能性がある。だが全体としては複雑な構文はほとんど見られず、慎重に読み進めれば内容は十分読み取れる適切な難度である。設問も長文理解を問う典型的な形式で、前後の文脈を丁寧に確認すれば比較的正解を導き出しやすいものになっている。
- 問1 テキスト第1段落後半の内容を読み取る問題である。mithilfe, Gesichtsausdruck, Körperhaltungなどやや難度の高い語彙が含まれている。だが、mithilfeを知らずともHilfeからその意味を連想したり、Gesichts-やKörper-から推測したりすることで正答を選択することは可能である。
- 問2 近代科学における機械論に触れた第2段落の冒頭3行の内容を言い換える問題だが、wie Maschinenを見つけることができればとくに問題なく選択できる。

問3 第2段落後半で紹介されたAI研究者の主張の根拠を把握するために、Ihr fehlt… から始まる文を理解しているかどうか問われる難度の高い問題である。文頭のIhrがfehlenの3格目的語であることやkomplexやKomplexitätが日本語における強迫観念、劣等感としての意味合いではないことを理解できるかが重要である。

問4 AIロボットであるクララについて、第3段落の内容、とくに最後の文が正確に理解できているが重要になる。selbstverständlichがnie Zweifel daranに相当することを見抜けるかが問われる、難しい問題である。しかしこの段落に書かれた内容を丁寧に追えば、正解を選ぶ助けになる。

問5 『クララとお日さま』の中心的な主題である人間とAIロボットとの共生について、第4及び第5段落で述べられた内容を理解しているかを問う問題である。本文や選択肢を慎重に読めば正答にたどり着くことができる。

問6 この作品で投げかけられている問いのひとつを日本語の選択肢から選ぶ問題である。テキスト全体の理解度を問う意味では良問だが、問5でも人間社会におけるAIロボットの位置づけについて問われており、内容的にやや似通った問題になってしまっている。選択肢又は問いにおいてももう少し出題の意図を明確にしたほうが良かったように思われる。

問7 文章内容に合うタイトルを選ばせることで、テキストの大意の把握を試す良問である。正答である①の文中でwir Menschenが同格で主語となっていることが理解できれば、特に問題なく正解を導き出せるだろう。

3 ま と め

今年度の共通テスト「ドイツ語」は、出題形式や配点が昨年度と同じ、また平均点も昨年度と同水準であり、安定的な出題となっている印象がある。テキストの分量が多くなれば読む分量が増えるため、受験者の負担が大きくなる側面があり、昨年度は語数を抑制した工夫が見られた。しかし、語数を減らすと、一語あたりの意味に依存する比率も高まるため、より語彙力が問われる問題になることに注意したい。その点で、今年度は再び語数を増やしたため、難語が減り、読む分量が多少増えても、文意を取るのに負担が減ったと思料される。テーマとしても、若者主導のイベントや両親の銀婚式、交換留學生の報告、人工知能をめぐる問題など、高校生や大学生が身近に感じられ、また追体験できると思われるシチュエーションが扱われている。交換留学に関するテキスト（大問6）は、実際に日本に留学滞在したドイツの高校生のレポートをもとに作成されており、若者の実生活に即したドイツ語に触れられるように工夫されていると評価する。

外国語で書かれたテキストにおいては「～すべし」「～してはならない」「AならばBだ」「私は～したくない」というような主張・論理構造が顕示的であり、日本語のテキストのような「ハイコンテキスト」（行間を読ませる）にはなっていない。日本語とは違うスタイルで書かれたテキストを読むことで幅広い思考を涵養することができる。外国語は何も英語だけではない。今後も英語に偏りすぎない外国語教育が展開されるためにも、共通テストにおける「ドイツ語」など諸外国語の果たす役割は大きいと思われる。